● 第11回足立医療センター 地域医療支援病院運営委員会



第 11 回足立医療センター地域医療支援病院運営委員会を開催いたしました





2026 年 6 月 11 日（木）、足立医療センター 4 階大会議室において、第11回地域医療支援病院運営委員会を開催いたしました。医師会、病院、消防など外部委員と当院委員が出席し、地域医療体制について活発な意見交換が行われました。

はじめに塩沢委員長が、日頃の紹介・逆紹介や救急搬送受け入れへの協力に謝意を述べ、続いて朝見委員より、外来・入院患者数、紹介・逆紹介、地域別の患者動向、救急搬送件数、高額医療機器共同利用状況など、直近の診療実績が報告されました。

その後、小川内科部長からは「内科外来診療の新たな取り組みと内科の現状」、松岡小児科部長からは「小児科の実態と課題」について報告がありました。内科では 24 時間救急体制強化により救急要請・応需が増加したこと、小児科では広域から救急・紹介患者を受け入れる一方で医師数確保や小児入院管理料 1 取得に向けた課題が示されました。

委員からは、小児救急の受け入れに対する感謝や救急体制への高い評価、今後の医師増員への期待など、多くの意見が寄せられました。

次回委員会は 2026 年 10 月開催を予定しております。

● ヘルスケアセミナー開催報告



去る 6 月 26 日（金）13:00 から、患者サポートセンター MSW が「がんと仕事」について講演を行いました。

がんの治療と仕事の両立するための情報や制度等、内容は多岐にわたり、参加者からはご自分や家族を思っての質問が多く出ました。

ヘルスケアセミナーは毎月第 2，第 4 金曜日の 13：00 ～ 13：30 で正面入口隣のラウンジにて開催しております。病気を予防し、健康を維持するための方法や社会資源等、役立つ情報をお伝えしていますので、是非患者さんやご家族の方にご案内ください。予約は不要です。

● ロゴマークが決定しました！

広く院内スタッフから募集し、厳正なる審査の結果、当院のロゴマークが決定いたしました！
採用された呼吸器外科の久保田晶子先生に一言いただきました。

- **コンセプト**：足立区の木である「桜」をデザインに取り入れ、地域とのつながりや親しみやすさを表現しました。
- **大事にしたこと**：東京女子医科大学病院のロゴマークとの統一感を意識し、桜の配置や色合い、文字のバランスを何度も調整して仕上げました。
- **採用されたときの気持ち**：自分が考えたデザインが採用され、大変光栄に思いました。病院の一員として少しでも貢献できたことを嬉しく思います。

Tokyo Women's Medical University Adachi Medical Center
Topics 2026.8 Vol.04

Topics

広報誌トピックス



東京女子医科大学
附属足立医療センター
Tokyo Women' s Medical University
Adachi Medical Center



2026
真夏号
Vol.04

Contents

- 第45回城東地区 医療連携フォーラムのご報告
- IVRセンター開設のお知らせ
- 診療科紹介「循環器内科」
- 第 11 回足立医療センター 地域医療支援病院運営委員会
- ヘルスケアセミナー開催報告
- ロゴマーク決定

第45回城東地区 医療連携フォーラムのご報告

去る令和 8 年 7 月 17 日（金）に第 45 回城東地区医療連携フォーラムを併設の看護専門学校大講堂にて開催いたしました。

セッション 1

今回はセッション 1 として「認知症-診断・治療・ケア」を第一病院　脳神経内科の野村 誠理事長にご講演いただきました。

高齢化社会が進む中、参加者の認知症患者への関心は高く、泌尿器科など幅広い診療科からの質問が出ておりました。





セッション 2



セッション 2 では当院産婦人科教授の中林 章部長から「生まれる命に向き合う倫理 - 着床前・出生前検査から周産期ケアまで」の講演がありました。

最新の検査方法などの紹介や倫理を問う内容に参加者も真剣に耳を傾けておりました。

懇親会

フォーラム終了後に職員食堂で行われた懇親会には、約100名の方々が参加され、普段顔を合わせて話をする機会の少ない院内外の参加者たちは和やかに歓談しておりました。

最後になりましたが、世話人、座長、閉会の辞を務めていただきました葛飾区医師会理事の大澤秀一先生、誠にありがとうございました。







● IVRセンター開設のお知らせ



IVRセンター　部長
山口（やまぐち）　英宣（ひでのり）

このたび、2026年7月1日付で IVR センター部長を拝命いたしました、山口 英宣と申します。

私はこれまで約20年にわたり、日本医科大学において IVR（Interventional Radiology、血管内治療）診療に従事してまいりました。2022年4月に足立医療センターへ赴任後は、院内の IVR 診療を担当し、計画治療から緊急治療まで幅広く対応してまいりました。

専門は血管系 IVR ですが、非血管系 IVR を含めた幅広い IVR 症例に対応可能です。小児から高齢者まで、全身の多様な臓器・疾患を対象とし、画像診断に精通した IVR 専門医、診療放射線技師、看護師と連携しながら、安全かつ高精度な低侵襲治療を提供しております。

このたび当院に IVR センターが新設され、診療体制をさらに強化いたしました。現在、計画的治療に加え、術後出血、外傷性出血、産科出血などに対する緊急血管塞栓術にも24時間体制で対応しております。また、透析困難症に対する日帰りカテーテル治療も実施しております。



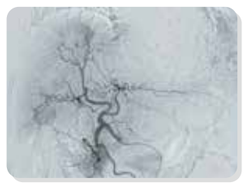
適応症例につきましては、医療連携室を通じて外来予約をいただけますと幸甚に存じます。緊急症例につきましては、院内スマートフォン（内線 31735）まで直接ご連絡いただければ迅速に対応いたします。

地域の先生方のお役に立てますよう、引き続き診療体制の充実と質の向上に努めてまいります。

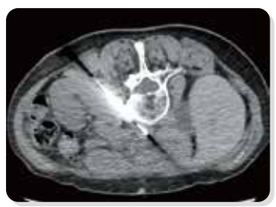
今後ともご指導、ご鞭撻のほど何卒よろしくお願い申し上げます。



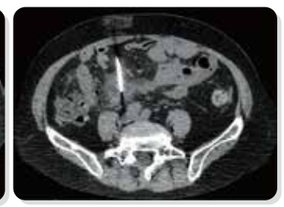
腎動脈瘤



原発性肝細胞癌



傍大動脈リンパ節生検



腹腔内膿瘍ドレナージ

理　念　センターは、「至誠と愛」の心をもって人に接し、最善の医療を実践し、社会に貢献するとともに全人的医療人を育成することを理念とする。

基本方針

1. 患者視点に立った、きめ細やかな温かい心の通った医療を実践します。
2. 先進医療の推進や高度医療の提供に尽力し、チーム医療と質の高い安全な医療を提供します。
3. 医療連携を通して、地域住民の健康推進に貢献します。
4. 創造的知性と豊かな人間性を有する医療人を育成します。

財団法人日本医療評価機構
認定病院

● 循環器内科紹介



循環器内科　部長
嵐（あらし）　弘之（ひろゆき）

私たち循環器内科では、急性期循環器疾患から、慢性期循環器疾患の診断・治療まで幅広く対応しています。特に救急医療では、2025年7月に東京都 CCU ネットワーク（急性心筋梗塞、不安定狭心症、急性心不全、重症不整脈、大動脈解離などを24時間365日体制で専門施設へ搬送するための75施設からなる救急医療ネットワークです）に再加入して以降、急性心筋梗塞の受け入れ件数は都内3位（2026年1月-3月集計データ）となっています。足立区を中心に、葛飾区や荒川区など近隣地域からも多くの患者さんをご紹介いただいており、地域の循環器救急を担う責任の重さを日々実感しています。今後も、一人ひとりの患者さんに対して質の高い医療を提供し、地域の皆さまにより信頼される循環器診療を実践していきたいと、スタッフ一同気持ちを新たに取り組んでいます。

虚血性心疾患に対しては、他院で治療困難と判断された複雑病変に対するカテーテル治療にも積極的に取り組んでいます。また、近年注目されている INOCA（非閉塞性虚血性心疾患）や、女性に多い冠微小循環障害についても専門的診療を行っています。

不整脈診療では、心房細動（Pulsed Field Ablation）、上室性頻拍、心室頻拍などの頻脈性不整脈に対し、3D マッピングシステムを活用したカテーテルアブレーションを行い、治療精度向上と放射線被曝低減の両立を図っています。徐脈性不整脈に対しては、従来型ペースメーカに加え、リードレスペースメーカ植込みや、心不全改善効果も期待される刺激伝導系ペーシングなど、先進的なデバイス治療を提供しています。

末梢血管疾患領域では、閉塞性動脈硬化症や重症下肢虚血に対する診断・治療にも力を入れています。動脈瘤や冠動脈バイパス術、弁膜症手術などの外科治療については、当院心臓血管外科と連携し、適切な治療戦略を立案します。

心不全診療においては、急性期治療のみならず、再入院予防を見据えた継続的な疾病管理を重視しています。高齢化に伴い心不全患者が増加する中、退院後の体液管理、薬物治療の最適化、生活習慣指導、早期増悪徴候の把握は極めて重要です。2026年度診療報酬改定では「心不全再入院予防継続管理料」が新設され、地域全体で患者さんを支える医療体制の構築が求められています。当科では、急性期治療を担うハブ施設として、地域のクリニックの先生方と密接に連携し、医師、看護師、薬剤師、管理栄養士、リハビリスタッフなど多職種が協働して切れ目のない疾病管理を行います。急性期から外来、そして地域へとシームレスにつなぐ診療体制により、再入院の予防と生活の質の維持・向上を目指します。

地域医療機関との連携を基盤に、急性期から高度専門医療、慢性期管理まで包括的な循環器診療を提供してまいります。診断や治療方針にお困りの症例がございましたら、ぜひ当科へご紹介・ご相談ください。



